

第22回災害対策本部会議における知事コメント

初めに、冒頭でも御紹介いただきましたけれども、本日は、あかま内閣府特命担当大臣にも御出席いただいております。

大臣におかれましては、政府非常災害対策本部の副本部長として熊本を支えていただいている中で、今日もまた自ら被災地にも足を運んでいただきまして、県民を代表して感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。この後、意見交換のお時間も設けておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、本日の会議でも、被災者支援や復旧・復興に関する様々な取組み、関係部局から御報告いただきました。

まず、罹災証明書に関する調査の進捗状況等について、初めてトータルで、大きな災害の時にしているものが今日から出せるようになりました。罹災証明書を迅速に発行することが、被災者の早期の住まいの再建や、各種支援制度の活用につながります。県としましても、人的支援、技術的支援を行いながら、市町村と連携して調査や手続きの加速化、これをしっかりと図っていきたいと思いますので、関係部局はよろしくお願いします。

また、午前中定例記者会見があったんですけれども、そこでも発表させていただきましたが、自宅敷地内への応急仮設住宅の設置や、本県で初となる2階建て応急仮設住宅の建設を推進して参ります。さらに、被災家屋の公費解体に取り組む市町村への支援を一層充実し、伴走型で公費解体をしっかりと、県としても支援して参ります。

被災された皆さまに、一日でも早く応急的なお住まいに移っていただき、生活再建を進めていただくためにも、これらの取組みは重要でございますので、内閣府防災をはじめ国の関係機関、そして市町村と連携して、全力で取り組んで参りましょう。

教育庁からは、嬉しい報告がありました。被災地域の学校における教育活動の開始時期について、遅くとも9月1日までには被災地の全ての小中高・特別支援学校で子どもたちの声が聞こえるようになる」と聞き、ほっとしました。学校は学びの場であると同時に、子どもたちの日常の居場所でもあります。被災し、不安を抱えている子どもさんたちが、安心して学び、友人との時間を心置きなく過ごすことができるよう、県としても、しっかりと支援して参ります。

さらに警察本部長から、被災地において防犯カメラ約950台、この大量の950台もの防犯カメラを設置中であるとの御報告がありました。私も被災地を訪問する中で、熊本県警はもちろん、全国から集まった数多くのパトカーや警察官の皆さまが、警戒活動・警ら活動や防犯活動等に従事されている姿を目の当たりにして、非常に頼もしく感じられました。

被災された皆様は、避難生活を送る中で、防犯面に不安を感じることもあると思います。昼夜を問わず、全国の警察が一丸となって、被災地の治安を守ってくれておりますので、皆さんどうか安心してください。

発災以降、多くの皆様の支えによりまして、被災地の状況は少しずつ改善してきています。しながら、被災された方々の生活再建や復旧・復興に向けて取り組むべきことは、まだまだ数多くございます。

引き続き一丸となって、一つひとつの課題に取り組む、粘り強く向き合い、歩みを進めて参りましょう。よろしくお願い申し上げます。